

総務省独立行政法人評価委員会
情報通信・宇宙開発分科会（第13回）

平成20年8月20日（水）

【細川課長補佐】 定刻を少し過ぎました。皆さんもおそろいになりましたので、ただいまから、第13回総務省独立行政法人評価委員会情報通信・宇宙開発分科会を開催いたします。

初めに、本会議の定足数の関係でございますが、委員6名中5名の方がご出席、または委任状をいただいております、定足数を満たしておることをご報告いたします。

次に総務省の組織再編、人事異動に伴い事務局側の構成員に変更がございますので、ご紹介をさせていただきます。

大臣官房総括審議官の河内が、前大臣官房技術総括審議官の松本にかわって参加いたしております。また情報通信流通振興課長の安藤が、前情報通信政策課長の秋本にかわって参加しておりますが、こちらは今回は欠席いたしております。

続きまして、本日の配付資料の確認をさせていただきます。非常に大部の資料になっておりますが、資料の一番上に議事次第とございます表裏1枚ものの紙がございます。その裏をごらんいただきますと、配付資料の一覧を記載しております。この一覧の順番に資料を重ねております。各資料の右肩に資料番号をつけておりますので、この配付資料一覧と資料番号とで照らし合わせて過不足等がないかどうか、ご確認をお願いいたします。

また、議事次第の次に資料情分13-1の資料番号をつけました前回議事概要（案）がございます。これについては内容に誤り等ございましたら、後日で結構でございますので、事務局までご連絡いただけるようお願いいたします。

それでは、ここからは本日の議事に入りますので、議事の進行は分科会長でございます森永先生をお願いいたします。

先生、よろしく申し上げます。

【森永分科会長】 つい先刻でございますが、2時から情報通信研究機構の部会を、ここでやったところであります。それからもう一つはJAXAさんの部会も先日行われたことになっている。この2つを合わせまして、きょう、分科会でご審議をいただくということになります。

議題は実質3つございます。順々に見させていただきますが、最初はNICTさんからいきますか。NICTさんの平成19年度業務実績評価について、事務局から、ご説明願います。

【細川課長補佐】 それでは、ご説明いたします。資料でございますが、資料情分13-2という資料番号がついております横長の資料、表題「平成19年度独立行政法人情報通信研究機構の業務の実績に関する評価調書」という資料がございます。そちらをお手元にお置きください。

簡単にご説明いたします。

表紙から、まず2枚めくっていただきまして、下に1ページとあるページをごらんください。

独立行政法人全体についての評価でございます。こちら、法人全体のいただいた評価でございますが、まず総論といたしまして、全体的に所期の目標を上回る成果が得られたと評価いただいております。また各論といたしまして新世代ネットワーク技術分野について、組織横断的な研究開発戦略本部を設置し、研究開発だけではなく、研究開発戦略策定レベルまでさかのぼって産学官連携を推進したことが、今後に大きな期待ができることのご評価をいただきました。さらに同じページの表の下段にございますが、業務運営の改善その他の提言でございますが、こちらについては機構全体の研究遂行バランスを勘案すると、新世代ネットワーク技術分野だけではなく、ユニバーサルコミュニケーション技術分野及び安全・安心のための情報通信技術分野についても、研究開発戦略を検討・共有するための方策が必要との提言をいただいております。

次に項目別評価の概要を説明いたします。3枚めくっていただいて、5ページにお進みください。

こちら、5ページから7ページが総括表となっております。評価項目はすべて24項目でございますが、そのうち、AAが6つ、Aが14個、Bが4個となっております。全体として、非常に高い評価をいただいております。また、この中で研究開発計画に関する17の評価項目を見ますと、コモン・リアリティー技術に関する研究開発など、4課題がAAとなっております。その他Aが10個、Bが3つとなっております、総体的に年度計画に定めた研究目標を十分に達成したという評価をいただいております。

以上でございます。

【森永分科会長】 ありがとうございます。それでは少しの時間ではございますが、

ただいまの評価のまとめにつきまして、委員の皆様方からNICTさんのほうに、あるいは事務局のほうにご質問等ございましたら、お願いしたいと思います。

もしなければ、次のJAXAさんの評価のとりまとめのご説明をいただいて、2つ終わった後で委員のみの会とさせていただいて、最終的な委員の意見交換の場を設けたいと思います。

NICTさんに対しては、よろしゅうございますか。

それでは恐れ入ります、JAXAさんのご説明をお願いいたします。

【能見推進官】 それでは事務局から説明をさせていただきます。お手元の資料13-3に基づきまして、平成19年度独立行政法人宇宙航空研究開発機構の業務実績に関する評価について説明をさせていただきます。

JAXAの評価に関しましては、文部科学省、それから総務省の独法評価委員会の双方で評価する形になっております。具体的にはJAXAから文科省に対して業務報告が提出されて、その写しが総務省に送付されるということになっておりまして、それに基づいて、本評価委員会において評価をしていただいております。この評価結果を、文部科学省の評価委員会に対して意見提出するという流れでございます。

これまでの審議経過でございますが、JAXAに関しましては6月16日にJAXA部会を開催しまして、JAXAから活動報告をしていただいております。これをもとにJAXA部会の委員の方々にも個別評価をしていただいております。7月14日にJAXA部会を開いて項目別評価、それから全体的評価の案のとりまとめをさせていただいたところでございます。

個別の評価内容でございますが、13-3の一番最後のページ、13ページと書かれているところをごらんいただければと思いますけれども、総務省で評価する部分が全部で57の項目がございます。最後のページに評価の評点基準、それから項目別評価の集計結果を掲載しております。評点の評価に関しましては、S、A、B、C、Fという形になっておりまして、これは総務省の評価とは若干異なる評価となっております。こちらは文部科学省の評価の方法に合わせた結果ということでございます。

項目別の集計結果でございますが、Sが全部で10、それからAが47となっております。

時間の関係もありますので個々の評価の説明につきましては、ここではちょっと省かせていただきまして、最初のほうに戻りまして、一番初めに全体的評価表（案）がついてご

ざいます。これについて、簡単にご説明をさせていただきます。

1 ページ目から順にご説明させていただきますと、まず1点目、3機関統合による総合力の発揮と効率化ということでございます。こちらに関しましては、技術者や研究者が一体となって、ロケットの信頼性に取り組み、官民共働体制のもと確実な技術開発、打ち上げを達成しているということで、特に「かぐや」や「きずな」の成功ということで、その技術力の優秀さを世界に向けて発信できた点は高く評価できるということでございます。

それから2点目、業務・人員の効率化でございますが、管理部門に関しては、効率化・簡素化を進めたことにより、人員削減を平成18年度から実現していることや、それから総人件費につきましても、昨年を下回り、削減目標を上回った数値を達成していることが評価できるという形になっております。

それから3点目の評価と自己改革でございますけれども、こちらに関してはプロジェクトの早い段階での審査を強化するとともに、プロジェクトマネージャの責任と権限の明確化、中止を含めたプロジェクトの見直しに関する意思決定プロセスを明確化したことにより、プロジェクト管理の強化が図られた点は評価できるということになってございます。

それから4点目、事業の実施でございますが、ここでは業務ごとに評価をさせていただいておりますが、例えばH-II Aロケットの標準型と主要機器を共通化し発展したH-II Bロケットの開発を進めた等といった点が評価できるという形になっております。

それから最後に5点目、安全・信頼性に関する事項につきましては、JAXA全体の品質マネジメントシステムを向上させるとともに、安全・信頼性の教育、訓練を継続して実施し、安全・信頼性意識の向上が図られているということで、組織的に行われたこれまでの継続的努力は実を結びつつあると考えられるということになっております。

簡単ではございますが、評価の概要は以上でございます。

【森永分科会長】 ありがとうございました。

評価のSというのは、特にすぐれたということですね。

【能見推進官】 はい。

【森永分科会長】 Aよりも上なのですね。

【能見推進官】 そうです。Sの場合は特に、客観的基準を設けているものではなく、中期目標の達成度が100%以上の場合はA。それ以外に何か特筆すべきすぐれたものがあれば、Sという形になっております。

【森永分科会長】 わかりました。

さて、JAXAさんの評価のとりまとめの内容はどうでしょうか。いかがでしょうか。委員の方々、何かご意見があれば。

よろしいですか。でも、全体的には大変いい評価じゃないですか。

【原島分科会長代理】 Bは今回1つもなしで、非常によかったということで。

【森永分科会長】 ここもやはり内部評価、外部評価をやっておられるわけですよね。この評価の結果については、例えばプロジェクトの見直しであるとか、あるいは予算をどこへ重点的にやるかとかに反映されていることになるわけですか。

【瀬山JAXA理事】 そのとおりでございます。外部評価をいただいて、その結果も踏まえて、内部できちっと評価した上で必要な調整をするという仕組みは既にできておりますので、その仕組みを動かす中で、今おっしゃったような運用をしてございます。

【森永分科会長】 それでは、ほかの委員の方、いかがでしょうか。よろしゅうございますか。いいですか。

それでは、どうもありがとうございました。

あと、委員だけの会とさせていただきますので、NICTさん及びJAXAさんは、どうぞご退席くださって結構でございます。

(NICT・JAXA退席)

【森永分科会長】 高畑先生、JAXAさんは大変いい評価でしたけれども、何かございますか。

【高畑分科会長代理】 19年度が第1期中期目標期間の最終年度に当たるということでJAXAは非常に頑張られました。時代の流れも大いに関係したと思われま。例えば、いろいろな災害が起こったとか、「SELENE」が成功し、話題になったとか、そのように時代の流れにフィットした研究開発をされており、それが実を結んだということがあります。評価は非常に難しいですが、そのような時代の流れに合った研究開発をちょうど実施されてきたことが19年度にぴたっと合ったということで、非常に評価が高いという状況でした。

Sという評価に関しては、どういう状況で与えるかということは大いに議論しました。世界的に見て非常に貢献があった、世界のほかの機関と比較して、技術的に十分上であるという項目に対してSという評価をさせていただきました。反対に、自組織内でいろいろ改革をして、効率が非常に上がったと言っても、もともと効率が低かったのが上がったのはSではないという判断もいたしました。

【森永分科会長】 なるほど。わかりました。

今、NICTさん向けの評価のまとめ、それからJAXAさん向けの評価のまとめ、2つを簡潔に説明はさせていただいたんですが、もし特段の、これにつけ加えて修正ご意見が委員の先生方からなければ……。

【高畑分科会長代理】 ひとつ追加させていただきますか。

【森永分科会長】 どうぞ。

【高畑分科会長代理】 Sが非常に多いということですが、期間中に目標を修正している項目もあります。

【森永分科会長】 途中で変更。

【高畑分科会長代理】 その手続も結構大変です。

【原島分科会長代理】 Bというのも一応は達成してるんですね。

【高畑分科会長代理】 そのとおりです。

【森永分科会長】 いいでしょうか。LNGでしょう。

【岡野宇宙通信政策課長】 あと中期目標期間の最初のときに、H-II Aロケットが失敗をしまして、評価もFという時期がございました。そこから、特に信頼性確保の観点から努力され、今に至っております。

【森永分科会長】 ほか、どうですか。何か特段のご意見はございますか。

【原島分科会長代理】 基本的には評価というのは何のための評価とえば、それに基づいてやるというのが重要だと思うので、きちんと頑張ってやっていたら、いい評価になるのは当たり前であるというのでいいんじゃないかと、私は思うんです。もしさぼっているようなとか、何かそういうのがあったら、それは悪い評価が当然出るわけですけども、別に通信簿じゃないわけですから、正規分布に出さないとか、そういうのはなくて頑張っていたら、きちんといい評価をするということで私はいいんじゃないかと思えますけど。

【森永分科会長】 なるほど。じゃあ、ほかの委員の先生方、それでよろしゅうございますか。一応、これは2つともかなり高い評価だったと思います。

【土井委員】 すいません、1点だけ質問を。NICTのところでマネジメントに関するお話の目標のところに女性職員を第1期の50%増しにするとか書かれているのですが、それは達成されたのかどうかというのがちょっとよくわからなかったんですが。

【細川課長補佐】 それにつきましては、女性職員、新規採用を5割増しにするということで、5割増しということで達成されております。採用数が少ないということがありま

すので、ものすごい増えたというわけではないかと。

【土井委員】 わかりました。ありがとうございます。

【森永分科会長】 なかなか難しいですね。

ほか、いかがでしょうか。よろしいですか。

わかりました。分科会としては、2つの機関の、この評価のまとめについては了承ということにさせていただきますでしょうか。

ありがとうございました。

3番目の議題です。JAXAさんの中期目標期間業務実績評価について、これがあります。それでは、再びJAXAさんに入ってくださいでしょうか。

(JAXA入室)

【能見推進官】 資料13-4でございます。こちらの資料に基づきまして、第1期中期目標期間におけますJAXAの業務実績に関する評価について説明いたします。

審議経過や、それからあと評価項目に関しましては、先ほど説明をさせていただいた19年度の業務実績の評価作業と基本的には同一でございます。評価の内容でございますが、最後のページになります17ページのところに書いてございます。こちらに先ほど同様に評価点、項目別評価の集計結果を掲載しております。項目別の集計でございますが、Sの評価が全部で12の項目、それからAの評価が全部で47の項目という結果となっております。個々については、ここでもちょっと省かせていただきまして、各項目別評価をもとにとりまとめを行いました全体的評価表に基づいて説明をさせていただきます。

最初のほうに戻りまして、一番初めの全体的評価表(案)と書かれた次のページの1ページ目をごらんいただければと思います。

まず1点目、3機関統合による総合力の発揮と効率化でございます。こちらは中期計画に基づきまして、効果的及び効率的な組織体制を構築し、大型ロケットの8機連続打ち上げを成功したということでございます。これは総合力の発揮ということで高く評価できるということになっております。また将来を見据え、今後10年以内に実施すべき技術を俯瞰する総合技術ロードマップの作成についても高く評価できるとされております。

それから2点目、業務・人員の合理化・効率化でございますけれども、一般管理費、その他の事業費、人件費のいずれにおいても中期目標をクリアし、さらにそれを上回る数値を達成している。また組織の集約や新しい人事制度の導入などのさまざまな取り組みにより、業務の効率化が十分に進められていることが認められる。管理部門についても、基本

計画に沿って毎年度効率化が行われているなど、大幅な人員削減を達成したことは高く評価できるとなっております。

続きまして3点目、評価と自己改革ですけれども、内部評価、外部評価の仕組みを策定し、外部からのフィードバックも取り入れて自己改革を進める体制を整えた点は評価できると。それで全プロジェクトに統一的に適用される「プロジェクトマネジメント規定および実施要領」を新たに制定、施行された点も評価したいとなっております。

続きまして4点目、事業の実施でございます。これは業務ごとの評価でございますが、例えばH-II Aロケット標準型を基幹ロケットとして整備・運用をする。主要技術課題の克服、信頼性向上対策を行い、H-II Aロケット標準型の技術の民間移管を平成17年度までに完了したというような点。またその次の項目ですと、追跡管制設備の整備、運用について、衛星の運用数の増加にもかかわらず高い運用達成率を維持して運用費を削減している点が評価できるとなっております。

それから最後の5点目の安全・信頼性に関する項目につきましては、H-II A 6号機打ち上げ事故や「みどりII」の軌道上不具合を教訓としまして、機構全体で信頼性・品質の向上に取り組む体制を組織的かつ集中的に構築し、それを継続的に推進してきたということで不具合が減少しているということ。これらによりまして、ロケットの連続打ち上げ成功、衛星ミッションの成功、それから日本実験棟のミッションの成功に貢献したものと判断できるとなっております。

第1期中期目標の評価の概要は以上でございます。

【森永分科会長】 要するにJAXAさんの5年間の総括ですね。評価の評点で言えば、SとAにすべて入っているという高い評価で5年間過ごされて、非常によくおやりになったということがわかります。

さて委員の先生方に、まずはJAXAさんに対して、何かご質問等ございましたら、お願いして、その後、また委員のみの意見交換といたします。

じゃあ、どうぞ。ご遠慮なく、ご意見をください。

まず、契約は入札制度になっているのですか。

【瀬山JAXA理事】 契約のほうでございますね。一般管理部門の契約。ものによって随契のものもございますし、入札して競争するものもございます。それについては、少し随契部分が多いというご指摘を受けてました。

したがって昨年の12月に見直し計画をつくってございます。その見直し計画に基づいて、

今年度から新しい契約に切りかえておると。それは多くのものが競争入札に切りかわってきて、随契が相対的に減っておるということでございます。ただし、プロジェクトは数年にわたってやりますので、あるときにあるメーカーがやっているわけでございますから、複数年にわたって、そういうものを急に競争入札にするわけにもいきませんので、そういうものについては、引き続き、継続して同じような契約スタイルということでございます。

したがって、やむを得ず随契が残るものもございますけれども、それ以外のものは一般競争入札という方式、もしくはRFPという方式に切りかえて20年度からやっております。

【森永分科会長】 切りかえた効果というものは費用面で、何か、削減ということが出てくるのですか。

【瀬山JAXA理事】 これからよく評価してみたいと思っています。

【森永分科会長】 ことしからですか。

【瀬山JAXA理事】 はい。

【森永分科会長】 わかりました。

ほか、いかがでしょうか。

ほかの諸外国に比べて、どの程度の位置づけになるんですか。いわゆるロケット開発、宇宙開発ですね。諸外国と言ってもたくさんあるので、例えばヨーロッパならESAでしたね。もちろんアメリカも入ると思うのですが、どのような位置づけなのでしょう。

【瀬山JAXA理事】 アメリカのNASAが民生部門をやっております。軍事部門はDODのほうをやっております。NASAとの比較がいいのだと思います。もちろんアメリカが圧倒的に世界の中でも技術力が高いと、多くのプロジェクトを持っていると。それは予算も10倍、人も10倍以上、我々より多いということだと思えます。

ESAのほうにつきましては、人はいい勝負なのですけれども、我々のほうがちょっと多いぐらいなんです。予算のほうは日本円でいけば5,000億円近いプログラムを持っております。したがって、かなり多様なプログラムを持っておりまして、日本から見てもすぐれている技術がたくさんございます。

もちろん日本自身もすぐれた技術を持っていて、例えばロケット技術で申し上げますとH-IIAというのは、今、8機連続成功でございますけれども、全体14機中13機が成功している。ロケットは最初の20機の成功率を見ると。要するに最初の段階でのトラブルが多いものですから、最初の20機で打ち上げの成功率を見ると、今、H-IIAは

93%になっております。これはヨーロッパ、アメリカのロケット、ロシアのロケットに比べても成功率が高いということで、我々としてはかなり高度な、高級な信頼性の高い技術をつくってきたと思っております。

また衛星関係でも地球観測衛星であるとか、防災衛星であるとか、そのデータの解析も含めて国際的にもかなり高い水準になってきておるといふことでございます。例えば今年度、GOSATという二酸化炭素を測定する衛星、これはアメリカと競争関係と協調関係、両方あるんですけども、同じような時期に打ち上げるということで、これも世界最先端のセンサーを積んだ衛星を今、開発しつつあるという状況でございます。したがって、小粒ながら頑張っているというような、我々にはちょっと申し上げにくいですけども、そういう部分も含んでおります。

あと宇宙科学の分野においても、JAXAは宇宙科学研究所が3機関統合の中に入っているぐらいですから、宇宙科学研究所は歴史的に、いろいろな宇宙観測の衛星では、かなり世界レベルの実績を残してございますから、その部分を我々は今抱えておるといふことでございますので、かなり国際的な水準は高いというふうにご理解いただけるかと思えます。

【森永分科会長】 JAXAさんのほうで開発された例えばロケット技術、打ち上げ技術について、日本としても、これは民間がやるんでしょうね。技術移転はされるわけですか。

【瀬山JAXA理事】 H-IIAにつきましては、昨年、三菱重工に技術移転を既にしております。技術移転したH-IIAをJAXAは、今、それを調達するという仕組みになってございます。したがって完全に技術移転をして、今、MHIがロケット打ち上げをやっておるといふことでございます。もちろんJAXA自身は公的機関ですから、安全の問題とか、射点の提供の問題とか、その辺、インフラのところはまだ我々がやっておりますけれども、打ち上げ自身は今完全に民営化しておるといふことでございます。

【森永分科会長】 技術移転された民営化のほうの、民間会社のほうだけでも、コスト面では太刀打ちできるようなレベルになっているわけですか。

【瀬山JAXA理事】 今、H-IIAは、型によりますけれども、1機打ち上げるときのロケットの値段は100億円、もしくは100億円弱です。それは例えば中国、ロシアに比べるとやはり少し高いという状況になっています。そういうわけでコストが非常に安いと。安いから注文をとれるという構造になってございませぬ。したがって、むしろ技術

のほうで勝負をしていくということだと思いますけれども、引き続き、メーカーのほうはコストを削減する努力を継続しておりますし、我々もロケット技術でそういうふうな技術が出てくれば、それを引き続き民間に移転して、コスト面でもなるべく競争できるような環境に、我々、応援していきたいと思っております。

【森永分科会長】 JAXAさんの立場とすれば、コスト面はあくまでも民間がやることであって、そこまで考慮したロケット技術という意味ではないわけですね。

【瀬山JAXA理事】 H-IIは、H-IIAの前のロケットですけれども、これは1機打ち上げるのに180億円かかっていました。したがって、これでは全くコスト的に太刀打ちできないということもあって、それを半分にしようということで作ったのがH-IIAでございます。したがって90億円ぐらい、半額になりました。

これは半額になったと言っても円安が円高に振れていますから、実質はそこまで半分にはなっていないんですけれども、要するに、そのぐらいの額にしてございます。したがって、そこまで落とした上で、我々は技術移転をしたということで、全くコストダウンは民間にお任せしたというあれじゃなくて、基本的にできるところは全部我々がやった上で民間のほうに技術移転をしている。したがって、民間は民間として、さらにコストダウンができるようなところは工夫されておるとい状況だと思います。

【森永分科会長】 そうですか。ありがとうございました。

【高畑分科会長代理】 今の質問に関連して、打ち上げてほしいという民間の衛星の引き合いがきているという状況ですと、技術の移転が非常にうまくいっているという感じがします。実際問題として、その点はどのようなのでしょうか。

【瀬山JAXA理事】 今、三菱重工は営業努力をされていると聞いております。したがって、現時点でまだ具体的な契約にはたどりついておりませんが、今、努力されておるということで、我々としては早く具体的に契約が成立することを期待しております。打上機数で言えば、年に1機ぐらい三菱のほうで受注をしていただくと、国の衛星を3機ぐらいご提供を申し上げれば、年間4機ぐらいになりますから、コスト面でも実績面でもいいところになるのかなということで、我々はそういうところを少し期待してございます。

【森永分科会長】 ほか、ございますか。よろしいですか。

【高畑分科会長代理】 もう一点よろしいですか。

【森永分科会長】 どうぞ。

【高畑分科会長代理】 報道によると、「かぐや」に少し不具合が起こっていると聞いて

います。寿命はあとどのぐらいでしょうか。

【瀬山 JAXA 理事】 設計寿命は1年ですから、9月中旬で1年になります。ただし、軌道投入が非常に効率的にいったものですから、燃料が少し余っております。したがって9月中旬を過ぎても、もうしばらくの間、おそらく半年近くはまだ運用ができるのだと思っております。そういう意味で、もちろん機械ですから一部トラブルは出ておりますけれども、衛星の機能を損なうところまでいってございませんし、センサーのほうも今いろいろとデータをとっているところがございます。しかも寿命も少し延びておるということでございますので、全体としては、非常によく予期以上のパフォーマンスを示しているということでございます。

【高畑分科会長代理】 安心しました。

【森永分科会長】 よろしいですか。

それでは、ありがとうございました。以後は委員だけの意見交換にさせていただきますので、ご退席いただいて結構です。どうもありがとうございました。

(JAXA 退席)

【森永分科会長】 それでは今、第3番目の議題の最後の締めくくりで、委員の方々の意見交換ということなんですが、ご説明いただいた全体的評価表、それから項目別評価総括表。要するに JAXA さんの5年間にわたる仕事の総括の評価。これでよろしゅうございますか。

【原島分科会長代理】 基本的には結構だと思いますが。

NICT さんの場合は B というのはおおむね達成なんですよ。JAXA さんの場合には達成しない部分もあるけれども、努力すれば達成する。

【森永分科会長】 そういう意味です。

【高畑分科会長代理】 数では比べられない要素が結構あります。

【原島分科会長代理】 今回、非常にいい評価が出たということで、僕は結構なことだと思うんですが、これがたまたま最近成功しているからいい評価なのか。もし失敗したら悪い評価になってしまうのか。これは前に議論がありましたね。一生懸命頑張っているのに、たまたまあるところで失敗したから、急にがくつという、天国から地獄へというのは研究者に対してはかわいそうではないかということがあったんですが、その辺は変わらないでたまたまよかったからよかった。失敗しなかったからよかったのか。それとも評価尺度の見直しをして、それも反映されているのかという、その辺はいかがなんでしょうか。

【高畑分科会長代理】 今回は全部目標を達成しました。

【原島分科会長代理】 そうなんです。ですから、これでよくて、次にもしたまま失敗すると、それでまたがくってなるのもかわいそうです。

【森永分科会長】 そうですね。5年間、毎年度、毎年度目標を立ててやっておられて、その目標を成功したという考えでいいんじゃないですか。

【岡野宇宙通信政策課長】 最初に目標を定めておりますので、それが到達されたかどうかというのが、やはり1つの尺度だと思います。

【原島分科会長代理】 もちろんありますね。

【岡野宇宙通信政策課長】 やはり成功したか、しなかったかというのは1つのめどになると思います。一方、先生がおっしゃるとおり、そのためにいろいろと努力したことは別の観点から評価すべきことだとは思いますが。今回も広範かついろいろな角度からのご議論の中で、意見が違うところは先生方の中であったのですが、そこも十分の議論いただきおまとめいただいたと考えております。

【高畑分科会長代理】 1点だけ、「みどりⅡ」という衛星が途中で不具合により観測ができなくなってしまいました。そのときにFの評定をしました。しかしながら、それにかわるような、JAXAが保有している他の衛星センサーからのデータを収集して、それを提供してきたということから中期目標期間で見て目標を達成したということでAにさせていただいたということもあります。

【原島分科会長代理】 失敗に対して、その後どう対応したかというので、きちんと対応できていれば、それはプラスの評価にもなる。そういうことでもあるんですね。

評価については、全然問題ございません。非常に十分頑張ってやっています。

【森永分科会長】 それではよろしゅうございますか。ありがとうございました。

それでは、これはこれで評価させていただいたということにさせていただきます。

それでは、きょうは、これで議事は全部終わりました。あとは事務局から、どうぞ。

【細川課長補佐】 平成19年度業務実績評価作業は本日をもちまして終了いたします。評価作業に取り組んでいただきました委員の皆様に事務局を代表して総括審議官の河内からお礼を申し上げたいと思います。

【河内官房総括審議官】 総括審議官の河内でございます。本日は長時間にわたりまして、NICT並びにJAXAの平成19年度事業年度の実務実績評価をとりまとめたいただきまして、大変ありがとうございます。

構成員の皆様方には4カ月という非常に長い期間にわたりまして、ご多忙の中、NICTあるいはJAXAに対し、精力的にヒアリングを行っていただき、また、この膨大な調書の作成に取り組んでいただいたということで、改めて感謝申し上げます。

申し上げるまでもなく、情報通信分野の研究開発、これは戦略的かつ計画的に進めるということは極めて重要なわけございまして、情報通信審議会も先ほど少し出ておりましたが、今年6月に答申を出しまして、UNS戦略プログラムⅡというのを出して、これを着実に実施していく中で研究開発というものをしっかりと進めて、日本のプレゼンスを高めようということございすけれども、この両法人が情報通信分野を担う研究開発型の独立行政法人として担っていく役割というのは、このプログラム全体の中としても非常に重要な中心的な位置づけになるものでございます。

そういう意味でNICTとかJAXAが皆様方からいただきました、この評価結果を踏まえてプラン・ドゥー・チェック・アクションと言われる、いわゆるPDCAサイクルでございすけれども、そういうものをしっかりと作用させて研究開発業務から得られる成果、あるいはそれによるイノベーション、これを着実に創造していく、国民に返していく。それだけではなくて、それをしっかりとアピールしていくことは重要なことであるというふうに思っております。

また頂戴いたしました評価結果につきまして、両法人が、それを踏まえて今後の業務運営とか、組織運営に役立てる、それにとどまらず私ども総務省といたしましても、今後の両法人の監督等に大いに指針とさせていただきますと考えております。

最後になりましたが、構成員の皆様方にNICTとJAXAの評価のために大変精力的なお取り組みをいただいたことを改めて感謝申し上げます、私からのあいさつとさせていただきます。どうもありがとうございました。

【細川課長補佐】 それでは今後のスケジュールをご説明させていただきます。この後、8月26日に総務省独立行政法人評価委員会が開催されます。本分科会でとりまとめられました評価結果につきましては、NICTのものにつきましては森永分科会長から、JAXAに関する部分につきましては高畑分科会長から委員会のほうに報告いただく予定でございます。

以上でございます。

【森永分科会長】 それでは委員の皆様方、長い間、ほんとうにどうもありがとうございました。

また事務局の皆様、どうもご苦労さまでございました。